

第三者評価報告書



第三者評価実施結果について本書の通り報告いたします。

報告日：20〇〇年〇月〇日

一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

印

【運営法人情報】

施設名称	△△幼稚園
運営法人名称	学校法人△△学園
施設種別	幼稚園
代表者氏名	理事長 機構 花子
施設所在地	〒000-0000 東京都千代田区〇〇2 丁目 2-2
電話番号	03-0000-0000
ホームページアドレス	https://www.***.com/
メールアドレス	info@*** -yochien.com
事業開始年月日	平成〇年〇月〇日
園児数	101 人
学級と人数	6 クラス 101 人
保育者数・職員数	16 人

【理念・基本方針】

- ・みほとけさまに手を合わせ、いのちを慈しむ強く優しい心を育みます。
- ・主体的な遊びを通して好奇心に寄り添い、一人ひとりの才能を育みます。
- ・特色ある教育を通して、創造する力、表現する力、聴く力を育みます。

【評価機関情報】

評価機関名	(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構
評価実施期間	20〇〇年〇月〇日～〇月〇日
評価報告書作成者	ER〇〇〇〇〇

【評価者】

教育学等を専門とする大学教授等	〇人
他園の教員等、幼児教育関係者	〇人
小学校教員、指導主事等学校の教育活動に造詣の深い者	〇人
その他	〇人
計	〇人

【総評】

●総合評価

公開保育を通じて外部の目から自園の実践が大きな魅力として認められたことで、保育者たちは確かな自信を得た。さらに大きな変化は、園長と現場保育者が「園としてどうしていくべきか」をていねいに語りあうなかで、保育の実践が「与えられたもの」から「自分たちでつくるもの」へと深く落とし込まれていったことである。方針への迷いや違和感もあえて共有し、それを前進の原動力へと変えていく対話が生み出されている。

実践のねらいを問い直すことや園内の対話の仕組みを整えるなど、園の自律的な歩みがすでに始まっている。「一人ひとりが頑張っていた職場から、チームになれた」という手応えを糧に、自ら対話のサイクルを回し始めた本園が、子どもをまんやかに据えた質の高い保育を探究し続けられることを大いに期待したい。

●特に評価が高い点、園の良さ等

○自然豊かで立体的な園庭環境は、本園が最も高く評価された点である。子どもが自らリスクに向き合いながら挑戦できる遊具や仕掛けが豊富に用意され、子どもも大人も「やりたい！」に挑戦できる風土が築かれている。

○子どもの声を聴き過程を大切にする子ども主体の保育が実践されており、一人ひとりへの丁寧な寄り添いを通じて主体性を引き出す関わりが日常的になされている。

○振り返り場面での言葉の引き出し方や視覚ツールの活用、遊びを継続・発展させるための環境構成の工夫など、保育者が子どもの学びを支えるための具体的な実践が積み重ねられている。

●課題、改善を求められる点

○子ども主体を大切にしながらも保育者がどこまで介入しどこまで見守るかという点が、全体を通じた共通の課題である。子ども理解に基づきながら、自由と規律のバランスや一斉活動のあり方について、園全体で対話を重ねていくことが重要である。

○園庭環境が高く評価される一方で、室内環境構成の充実や外遊びと室内遊びのつながりを意識した環境構成が求められる。活動のねらいを明確にし、子ども理解に基づきながら環境と援助の両面から保育の質を高めていくことが期待される。

●第三者評価結果に対する法人・施設のコメント

評価を受ける中で、まずは当園が日常的に取り組んでいる保育や環境構成の工夫が、第三者からも魅力的であると認められたことに安堵している。また、保育の中で生じる迷いや疑問を気軽に話し合える風土づくりは、これからも大切にしていきたい。

今回、保育者がそれぞれ「悩み」や「問い」として挙げていた課題を整理した結果、昔から残っている方針と、これから目指す保育の方向性にずれが生じていたこと、そして保育の自由度の高さゆえに保育者間で保育観が異なり、当園の保育の“枠”として統一されていなかったことが原因であると分かった。

しかし、これらの課題は「園の方針」「保育のねらい」「子ども理解」といったポイントを押さえながら、納得するまで対話を重ねることで解決できることも示された。

今後も、行事などの活動だけでなく、日常の一つひとつの保育の在り方について、トップリーダーを含めた保育者全員で問い直しながら、質の高い保育の探究に努めていきたい。